

ボランティア・市民活動立ち上げ支援事業（総合科学部分担部分）

事業のポイント（市民団体・生協組織と連携し、支援ノウハウを蓄積した）

- 「都市再生モデル調査」にNPO法人「子育て支援ネットワークとくしま」と共同で応募・採択。
 - ①郷土文化会館UD調査を実施。②阿波踊りUD調査を実施。③鳴門総合運動公園UD調査を実施。
- 徳島大学生協学生委員会の大学祭企画（『助ける立場』）に協力。
- 「市民が作るユニバーサルとくしま」HPの作成運営を県&NPOと共同してコーディネート。
 - ①ユニバーサル徳島マップの運用と、それをもとにしたワークショップの開催。
 - ②シンポジウム（3月16日、プリンスホテル）と紀要論文（『徳島大学社会科学研究』19号）での発表。

事業代表者 榎田美雄（総合科学部・助教授、E-mail: kashida@ias.tokushima-u.ac.jp）

連絡先）〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部1号館1224室（社会学研究室）

直通電話・ファクス）088-656-9308、wwwサイト）<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

事業の概要＝事業のねらいと今後の展望＝

本年は内閣官房都市再生本部が募集していた「全国都市再生調査」および、徳島大学学長裁量経費「徳島大学における人文・社会科学データのデジタル情報化及びその地域貢献に向けての総合的システム開発」との連携・協力をベースに活動を行った。

具体的には、①地域の諸団体の協力を得て行った、県郷土文化会館のユニバーサル・デザイン調査（5月）、②NPOと連携して行った徳島市中心市街地に対する阿波踊り期間中のユニバーサル・デザイン調査（8月）、③プロサッカーチームの『徳島ヴォルティス』サポーターおよび身体障害者団体『おむすびの会』と共同連携して行った鳴門総合運動公園ユニバーサル・デザイン調査、がある。また、これらの活動の成果を市民の議論のアーリーナに提供するために、東京大学工学研究科都市計画研究室が開発運用している『カキコまっぷ』を活用した。さらに、大学祭企画として徳島大学生協学生委員会が主催した『助ける立場』（車イス体験乗車企画）に、工学部福祉工学教室と共同して協力をおこなった。

これらの事業のねらいは、昨年までと同一である。すなわち、実際の市民活動支援を行うことによってボランティア・NPO支援のノウハウを蓄積し、さらにその過程を分析して学術的な成果も得るといふことである。これらの活動によって得られた成果は、上記シンポジウムと紀要論文によって発表された。

来年度以降の構想としては、以下のことを構想している。すなわち、『カキコまっぷ』のオープンソース化事業が、平成18年度前期に予定されていることを受けて、さらに多様な公共施設に関して、ユニバーサル・デザイン調査をすること。大学生協学生委員会との協力や工学部福祉工学研究室との協力をより充実させることによって、大学側の「ボランティア・NPO支援」の力量を増大させること、これらである。

事業の取り組み状況

平成17年4月28日

全学共通教育の授業『ボランティア論』参加学生と共同して、徳島県郷土文化会館において、ユニバーサル・デザイン調査を行った。7月に意見書を簡条書きにまとめて県に提出し、平成18年2月に解答書を得た。この状況は徳島新聞等に多数報道された。

平成17年8月12日～15日

阿波踊り期間中は、NPO法人『子育て支援ネットワークとくしま』と共同して徳島市中心市街地のユニバーサル・デザイン調査を行った。結果の概要は、都市再生本部への報告書にまとめた。

平成17年12月2日～3日



鳴門総合運動公園でユニバーサル・デザイン調査をおこなった。この様子は、12月4日付けの徳島新聞に報道された。

平成18年2月15日～3月4日

NPO法人子育て支援ネットワークとくしま、ほかと共同で、ユニバーサル・デザインワークショップを行った。

平成18年3月16日

徳島プリンスホテルにおける「四国すまいづくり推進協議会」主催のシンポジウムにおいて、年間の成果発表を行った（発表タイトル：ICTを活用した多様な住民参加を可能とするまちづくり事業）。